

活力あるいばらきづくり

羽田 橋本知事、明けましておめでとうございます。

知事 おめでとうございます。羽田さんは、昨年は国民文化祭の司会、また「いばらき大使」として茨城を宣伝していただき、心から感謝しています。

羽田 国民文化祭は、本当に素晴らしかった。



茨城県知事
橋本 昌

みよい いばらき

J-PARC、
ついて、橋本知事が
さんと語り合います。

たです。私自身、茨城の魅力を全国に発信するお手伝いができてうれしかったです。今年の茨城県はどんな年になりそうですか。

知事 昨年は物価の高騰や、景気の悪化など大変な年でした。一方で、北関東自動車道の県内全区間が開通して常磐道と東北道が結ばれ、また十二月にJ-PARCが稼働するなど明るい話題もありました。

今年はず、景気対策を進めなければならぬと思います。景気の悪化で、中小企業も大変苦しんでいます。「セーフティネット融資」などを活用していただき、一日も早く元気を取り戻してほしいと思っています。

また、今、大きな注目を浴びているのが「茨城空港」です。現在、滑走路やターミナルビルなどの整備が順調に進んでいるところでは、

羽田 その茨城空港の開港は、いつなんでしょうか。

知事 来年三月開港なので、あと一年三カ月ということになります。

羽田 楽しみです。新しい空港ならではの特徴や航路誘致の状況はいかがですか。

知事 茨城空港の開港により、車で一時間圏内に住む三〇〇万人の方々の国内外へのアクセスが便利になります。また今、成田空港では四十一カ国が乗り入れを待っています。首都圏に世界中の人が来たがっているのに受け入れる容量がなく、これを補う形になっていくものと思っています。韓国のアシアナ航空や格安航空会社、例えば、マレーシアのエアアジアXなどが大変関心を持っており、低コストでコンパクトな首都圏第三の空港として重要な役割を果たしていきたくも考えています。

羽田 橋本知事は、「活力あるいばらきづくり」ということで「産業大県づくり」にまい進されているとお聞きしたんですが、どのようなことをされていますか。

知事 これから人口減少が急速に進んでいきますから、元気な県を創っていくためには、働く場所を確保し、定住人口、交流人口を増やしていくことが、本県の発展の大きな鍵になると思っています。

そのため、陸海空の交通ネットワーク、J-PARCやつくばの研究施設など、本県のさまざまなインフラを整備されつつあることをPRしながら、企業誘致に一生懸命に取り組んでいます。

この十年間で見ると、本県の工場立地面積は、千四百四十一ヘクタールと全国でダントツの一位になっています。

羽田 茨城県はますます産業が発展していくんですね。本当に楽しみです。

「J-PARCにて」

羽田 とここでJ-PARCというのは初めて聞いたのですが、どういうところなんですか。

知事 「大強度陽子加速器施設」を略してJ-PARCと言っています。

職員 こちらが、J-PARCの物質・生命科学実験施設です。ジャンボジェット機が二機収納できる大きさなんです。

羽田 この中ですか。

職員 はい。この中にあるビームラインで、原子や分子といった非常に小さな世界の研究ができる世界最先端の施設です。こちらに茨城県がビームラインを二本造っており、そのビームラインを使って世界最先端の研究を行うことが計画されています。

羽田 へえー。

知事 このような研究施設では、通常、基礎研究が中心になってしまうのですが、実用的な方面、実社会に役立つような研究成果に結びつけられないかと、二つの設備を造りました。

この設備を利用して、難病治療薬や高性能なリチウムイオン電池など、世界があっという間に驚くようなすごい研究成果が早く出てほしいと願っているところなんです。

羽田 この形は、まるで、人間の脳のように見えるんですが、ここが茨城県の最先端の脳みたいな感じですね。

知事 そうですね。こういった新しい設備ができることによってノーベル賞が茨城県からもっともっとたくさん出てくれるのではないかと期待しています。

さらに、県では、J-PARCを利用する人たちのための相談に乗ったり、実験研究設備を提供したりする「いばらき量子ビーム研究センター」も造っています。

羽田 すごく未来が楽しみです。

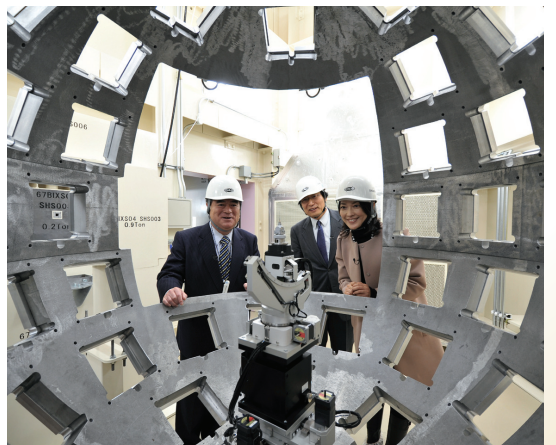
「食の王国いばらき」

羽田 茨城は農業もまた盛んですよね。

知事 そうですね。平成十八年で見ると農業産出額は、全国第四位です。そして東京都中央卸売市場での茨城県の青果物のシェアは、金額で全国第一位になっています。

また、常陸牛は銘柄牛としてかなり有名になってきました。メロンも、現在はシェア二十％、全国第一位になっています。

羽田 へえー、そうなんですか。



生命物質構造解析装置 (J-PARC)

住 共に創ろう

茨城空港、
医療福祉対策などに
いばらき大使の羽田美智子



女優
羽田 美智子

新春対談



知事 茨城県産のメロンは、味がいい割に値段が安いので、高い評価を受けています。
羽田 消費者にとっては何よりありがたいことですね。茨城には、もう何もかもあるわけですね。
知事 そうですね。農業も工業も、両方オールマイティーな県を目指していきたいと思っています。

住みよいいばらきづくり



全国に誇る茨城の農産物

羽田 安心して暮らしていくためには、医療と福祉の充実も大事だと思いますが、本県の状況はいかがですか。
知事 医師不足が深刻です。県では医師確保支援センターを立ち上げるとともに、医学生に対して修学資金を貸与したり、研修医に対しての奨励金を交付したりするなど、医師の確保に努力しているところです。そして、また、筑波大学医学群には、来年度から、本県出身者のための地域枠を設けていただくことになったところですよ。

羽田 そうなんですか。救急医療体制についてはどうですか。
知事 特に小児科と産科の医師不足が大きな問題になっています。総合周産期母子医療センターや地域周産期母子医療センターを設けていますが、そこで勤務する医師の確保が大変緊急の課題になっています。それから小児科については、「子ども救急電話相談」を実施しています。

羽田 少子化対策も重要な課題ですが、どのような取り組みを進めているんですか。
知事 まず、保育園をきちんと整備していくことや子どもの居場所づくりに取り組んで

います。また、「仕事と家庭両立支援奨励金制度」などを通じて、企業の理解を促していくことも必要だろうと思っています。また、「医療費の助成や「いばらき三人っ子家庭応援事業」なども始めています。

それから、「いばらき子育て家庭優待制度」では、今、四千店舗が子育て家庭を応援しています。ただ、一方で、未婚化・晩婚化が進んでいるという状況もあるので、「いばらき出会いサポートセンター」を県でスタートさせており、

約二年半で二百十三組が成婚に至っています。現在、会員が約二千三百人ほどおり、活動も活発になりつつあります。
羽田 ところで、昨年、洞爺湖サミットが開かれて、地球温暖化問題が大きくクローズアップされましたが、県ではどのような取り組みをされているんですか。
知事 現在、世界全体が地球温暖化に対応していこうとしています。本県ではエコライフに取り組んでもらうため、「エコチェックシート」の配布や「マイバッグ運動」への参加呼びかけを行っています。それから企業向けの「エコ事業所登録制度」には、約千事業所の参加をいただいています。



いばらき出会いサポートセンター

そのほか、今年度から森林湖沼環境税を導入させていただきますが、これを活用して、森林の間伐や高度処理型浄化槽の設置促進など、さまざまな環境対策に取り組んでいます。

人が輝くいばらきづくり

羽田 ところで、橋本知事は、「人が輝くいばらきづくり」に大変力を入れていらっしゃいますよね。
知事 はい。日本の将来、元気ないばらきづくりを考えると、その基本は、「人づくり」にあると思っています。そして人づくりという点では、学力と社会性をどう養うかということが大事だと思っています。科学技術創造立県を目指している茨城県では、理数系の人材育成というものが大変重要だろうと思っています。

今年、「国際生物学オリンピック」がつくばで開かれるので、これを機会に、科学や数学に子供たちがもっともっと関心を持ってくれば良いと思っています。社会性を養うためには、小学一年生全員に「おてつだいちょう」を書いてもらったり、中学二年生全員には社会体験事業として、職場体験をやらしてもらっています。

また、本県独自の取り組みとして、全県立高校の一年生を対象に、「道徳」の授業を平成十九年度から導入しています。
羽田 今日は橋本知事にいろいろお話を伺って、これからの茨城がますます住みやすく、また楽しくなっていくのを確信しました。私もいばらき大使の一人として、応援していきます。

知事 今年も一生懸命、県民の皆さんと力を合わせて、「人が輝く、元気で住みよいいばらきづくり」を進めていきたいと思っていますので、よろしくお祈りします。



高校の「道徳」の授業